



きょう子通信

2018年4月
No.47

常滑市議会議員 新風クラブ 井上 恭子

ご意見 〒479-0866 常滑市大野町6-56(大野町きょう屋内)
ご相談は TEL/FAX: 42-1307 E-mail: kyo-ya@infoseek.jp

Facebookもチェック フェイスブック井上恭子(Kyoko Inoue)もご覧下さい。 いいね!



105億円の高額市庁舎を望んだ市民は何処にいた??

- ◆最終的に市庁舎は単独で建設されることになったが、最初の市庁舎複合化とした判断は?
- ◆30年度の市長施策方針は本当に市民が望んでいること?

建設など総費用	
市庁舎複合化	105億円
市庁舎のみ	68億円

公共施設集約は現場の市民の声を

予算書の作り直しにどれだけの税金がかかったの?

市民の声が市政を動かす

セントレアは常滑市の施策?

行政サイドの夢物語

常滑市民に直結している?

今回、以前から常滑市役所が借金返済や市民サービスより重要としてきた市庁舎の建替えとなった。昨年より市民会議で話し合ってきたが、「時間が無い！」を理由にして市民へはパブリックコメントだけ。しかも議会への報告は、市庁舎複合化(文化施設併設)の莫大な予算編成の分厚い予算書が製本され完成した後。市民だけでなく議会すらも軽視するありさま。もちろん議会は反対表明。市民による文化会館存続の署名活動もすぐさま開始され、複合化を断念し市庁舎単独建設となった。

また、平成30年度の市長の施政方針の見出しが、「セントレアとともに大きく飛躍するまちを目指して」と大上段に書かれている。セントレアからの税収を当てにしようとしているのであろう。しかし、この考え方が内陸部に居住する常滑市民の生活に直結し、住民から望まれているとは思えない。次世代の子どもたちや市民生活が視界から消えた、行政サイドの夢物語だと感じた。

高浜市第6次総合計画

**「思いやり 支え合い
手と手をつなぐ 大家族たかはま」**

私たちの愛する高浜氏を未来につなげるために・・・「自分たちのまちは自分たちで作ろう」という意識を持つとともに、将来を見通しつつ、時代の変化や課題に的確に対応するための「まちづくり設計図」が必要とある。高浜市の第6次総合計画は、常に市民が中心の冊子になっていて、常滑市の難しい総合計画とは違います。

常滑市第5次総合計画

**感動を次世代につなぎ
世界に開くまち 常滑**



市民目線での将来計画をしよう!

今、国会でも森友文書改ざん問題など騒がれているが、今までなれ合い、忖度できた政治の社会は変わるべきだと思う。常滑市においても今回の市庁舎建設も、契約は業者の言うなり。情報が独り歩きするからと、議員には事業の明細不開示(浄化センター48億円)予算編成過程の公表もない。これでは議員のチェック機能が発揮できない。まったく市民目線ではない。こんな理不尽な状況でも誰も何も言わず賛成で通ってしまう。市民は立ち上がり、声を上げるべきであろう。

財政シュミレーション

年度	H30	H32	H36	H39
歳入	218	263	209	206
歳出	229	278	210	209
歳入-歳出	△10	△14	△1.7	△2.4

解決されていない一般質問の検証

一般質問は、市民の要望を代弁したり、市民に訴えたい、知ってもらわなくてはならない項目、行政に気づいてもらい、改革しなくてはならないことなど問う重要な質問である。しかし11年間一般質問を行い、まだ解決できていない一般質問に対し、再度質問をした。

問 地震災害等女性参画できてるの？

答 より良いマニュアルの整備をしていく。

東日本大震災では、災害時の女性参画の必要性が強く叫ばれたため、国は「東日本大震災復興基本法」を作り女性の参画を促した。しかし、本市の災害対応への女性参画はまだまだ立ち遅れている。明日来るかもしれない南海地震の備えのためにも、早急なる市民向けの避難所マニュアルや意思決定の場への女性の参画を推進することを再度求める。

問 審議会への女性の登用率はいつ30%以上になるの？

答 2020年には30%にしたい。

第1次常滑市男女共同参画プランが策定され、既に18年がたっている。にもかかわらず、平成28年度の審議会への女性登用率は21.4%で減少してきている。個別には課題があるものの、最近女性参画率は高くなっているとはいうが、審議会の人選では当て職が多いため、男性に偏りがちである。女性の参画により業務の改善がされ、発展している部分も多い。割当制を導入し、女性の参画を進めていくことを要望した。

問 防災マップには、避難場所と書かれていたところにも危険な場所が含まれていた。その後の進捗状況

答 修正したものは、市のホームページで公開し、情報公開に努める。

中学生の自転車通学の状態 中学1年



問 子どもが持ち帰るカバンの重さの軽減を求む

答 教科書を学校におけるよう検討をする。

問 学生服や自転車も年々高額になっていく、業者との交渉を求む。

答 学生服の価格も他市町を参考に検討したい。

常滑市教委負担軽減へ検討

常滑市教委が市内の中学生の登下校時の荷物の重量を調査したところ、生徒が10kg以上の荷物を持って通学していることが分かった。市教委は、負担軽減に向けた検討を各中学校に依頼した。

中学生 登下校の荷物10kg以上

市内の中学校では学校の保管場所の制約などから、一部の例外を除いて、教科書や参考書など授業で使う教材は毎日持ち帰るルールになっている。市教委が全四中学校で抽出調査したところ、どの学校、学年でも平均で十〜十四kgの荷物を持ち運んでいた。生徒は「十七kgの荷物を持参する子どもの親から相談を受けた。子どもが親に『なぜこんなに重いのか』と言っても、親は学校に直接は言いにくい。子どもと保護者、学校、市が集まって意見交換できるような場をつくってほしい」と話している。(小西数紀)

不登校・ひきこもり支援の充実を

問 ひきこもりの本市の実態はどうか、今後どのような対策を行っていくか。

答 平成28年の相談件数は、18歳以下では不登校95件、ひきこもり48件。15歳から39歳の狭義のひきこもりは85名、準ひきこもりは177名と推測。対策としては家族と協力し関係機関が連携して継続的、総合的に支援する。

交付税に頼る財政運営はしてはならない

子どもにつけを回さない

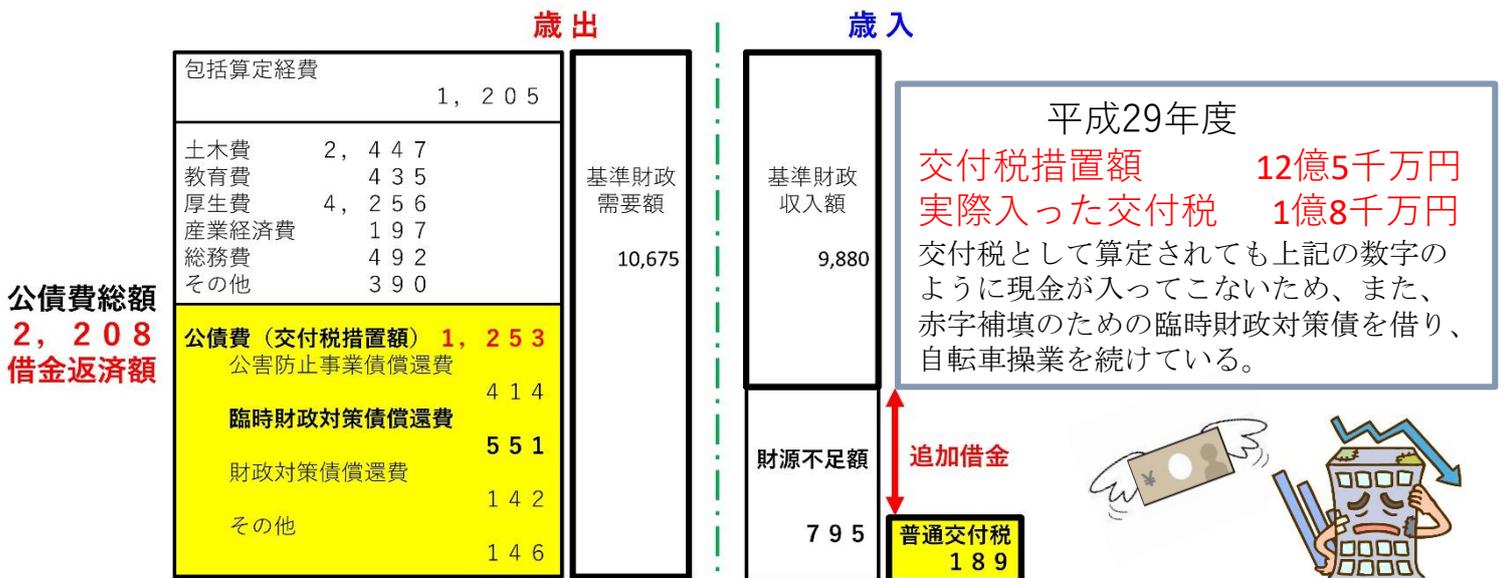
まずは臨時財政対策債を借りなくともできる 財政運営に戻ることが重要

問 国の予算不足のため、本来交付税として交付されるはずの相当額を、常滑市は臨時財政対策債として借り入れをしてきた。その目的は赤字補填である。行政側の説明では、それらの額は後年度交付税措置され交付税として交付されるから心配しなくてよいと言う。しかし問題は、常滑市の公債費のうち交付税措置された額と実際交付される額に大きな乖離があることである。つまり、交付税措置されても同額が交付税として交付される保証はないということである。結局財源不足で財政が硬直化する原因となるのである。いつまでも「交付税措置＝交付税」というまやかしを言うのではなく、交付税措置額と実際の交付額は違う事実を公表し、次世代の子どもたちにつけを回すような、交付税に頼る財政運営はしてはならないと思う。市庁舎建設にあたり、緊急防災・減災事業債として70%を国から交付税措置されるというのが、実際の交付額も70%相当額が交付されるのか。

答 交付税として措置された額が必ずしも交付されるものではない。

交付税算定の仕組み

H29年度（単位百万円）



本当の臨時財政対策債のからくり

私は事あるごとに臨時財政対策債は借金だと言いつけてきたが、他の議員はだれも信じないどころか、私へのヤジとなる。臨時財政対策債は国が財源不足のために、将来的に交付税措置するからといい、**市に借金をさせている債権**である。しかし、実際国は算定方法を変え交付税の額を減らしてくるのである。

この問題は予算委員会などでは話し合いがなされず、ほとんどが行政任せである。このままでは次世代の借金が増えるだけである。皆さんの力が必要です。

「やかましい！」 議長は激しく…

3月7日の一般質問にて国会でヤジは当たり前ではあるが、常滑市議会においては私もヤジの対象である。今回の一般質問で、私の質問から乖離した内容を延々話し続ける回答者（市職員）に対し、質問者である私は制止を求めた。しかし議長は回答者を止めるどころか、私に対して「やかましい！」などの不穏当な言葉を何度も**議長席から**発した。適切な議事進行のための行司役である議長は、行政側につき議事を進行させた。後日、私に主旨を確認することもなく私を議会運営委員会にかけ、他の議員も言いたい放題であった。**今の常滑市議会が市民の元に戻ってくるのはいつだろう？**



講演会

わずか15分で人生が変わる！ 超アグレッシブ！新聞読み方講座

6月16日(土)
13:30~15:30
中央公民館 視聴覚室



講師 座間宮ガレイ氏

大竹まこと氏に師事しバラエティー番組の放送作家やシティーボーイズなどのコント作家。「15分でわかる！人生が変わる！『新聞読み方講座』」をスタート。国際政治や国内政治や社会などの動向への関心を「15分で新聞を楽しく♡読み続ける方法」を全国回って伝えています。

主催 かえるの会
連絡先 090-8316-5663 (井上)

Cafe de 情報交換



あなたの考える常滑市は

6月2日(土) 10時~大野町きょう屋
19時~中央公民館

大野コミュニティ30周年記念 講演会

江戸の暮らしから学ぶ 持続可能な社会

7月8日(日)
13:30~15:30
場所未定



講師 澁澤 寿一氏

環境NPO「樹木・環境ネットワーク協会」理事長
認定NPO法人「共存の森ネットワーク」理事長
農学博士

明治の大実業家・澁澤栄一氏の曾孫 温かいお人柄と、心温まる素敵なお 話に魂揺さぶられます！

主催 大野コミュニティ
連絡先 090-8316-5663 (井上)

一隅を照らす

市民の声

他民に喜ばれる政治屋から 市民に喜ばれる行政を

常滑市は市民のための政治ではなく、他民の為に行政を行っておられることが最近目につくことが多くなりました。常滑焼が日本六古窯に認められても愛知県の公式観光ホームページでは匠の場面では紹介してもらえていないのが現状です。

<https://www.aichi-now.jp/spots/>

市庁舎移転では市民の声をないがしろにしたかと思えない結果には市政の舵を操縦される議員様や他幹部職員様の資質にも疑いが出始めております
財政危機にありながら他民に喜ばれる政治屋から市民に喜ばれる行政を祈ります。



6月議会のお知らせ

6月8日(金)~21日(木)
一般質問 11日(月)・12日(火)
傍聴お待ちしております

駅頭報告

午前7時00分~8時00分

大野町 4月23日(月)
榎戸駅 24日(火)
常滑駅 25日(水)



※きょう子通信のポスティングのお手伝い求む

編集後記

「救命女性に土俵下りて」というアナウンスがあった。現代においてまだこんなしきたりがあることに異常さを感じた。会派を大きくし役職を取る、挨拶をするのも役職のある人だけ、議員の世界も狭い社会の相撲会のようなものである。もっと開かれた議会にするには女性議員が必要だと感じた。